

開運大摩利支天閣 最上稻荷庭瀬支院 覚如山本了院

妙法華寺便り

令和7年8月号



和尚さんのよろず話



立秋が過ぎ、暦の上では秋となりましたが、まだまだ大変暑く、熱中症警戒アラートが発令されている日が続いています。どうか皆様お体ご自愛ください。

さて、お盆の時期に仏壇に「ほおずき（鬼灯）」を飾られることが多いと思います。鬼灯の赤い実が提灯のように見えることから「火火着

（ほほつき）」と呼ばれ、その音が変化して「ほおずき」となり、死者の霊を導く提灯に見立てられています。「鬼」は「陰（おに）」の変化で、この世は「陽の世界」、あの世は「陰の世界」という考えで、この世に生まれたら「戸籍」に入り、死後は「鬼籍」に入る考えがあります。魂はつながり、御先祖様は私達を見守ってくださるので、お盆に鬼灯を飾り、霊をお迎えするのです。

また、赤い色は魔除けであり、邪悪なものを家に寄せ付けない意味ももちます。

ところで、鬼灯を飾る習慣の始まりは、江戸時代に遡ります。ある人が、「6月24日の功德日に青鬼灯の実を愛宕の神前で鵜呑みすれば、大人は癪の種（腹の立つ原因）を切り、子どもは虫の気（かんのむし）を封ずる」と夢の中でお告げを受けます。これにより東京の浅草浅草寺や愛宕神社で鬼灯が縁日で売られるようになったそうです。当時は鎮静効果のある薬として使用されていたようですね。しかし、今売られている鬼灯は観賞用で食用ではありませんので、食べないようにしましょう。

ほおずきの花言葉は「自然美」「心の平安」です。法華經の精神そのものの花言葉ですね。8月6日は広島、9日は長崎で原爆投下による被災から80周年（81回忌）となり、終戦80周年と併せて死没・病没の方の供養をしております。世界を見れば、なかなか戦争が無くならない現実がありますが、1人1人の思いが広がるよう心に平和を祈念して日々過ごしたいものです。

今の当たり前の日々が続いていきますよう、お題目を唱え今の安穩の日々の礎を築かれた御先祖様方に感謝しましょう。

合 掌



◇ 行事報告 ◇

7月18日（金）摩利支天月例祭

10時からの読誦会に引き続き月例祭を執行しました。暑い日でしたが、今年もクーラーのおかげで気持ちよく開催できました。皆様も体調管理に気を付けて日々お過ごしください。

◇ 行事案内 ◇

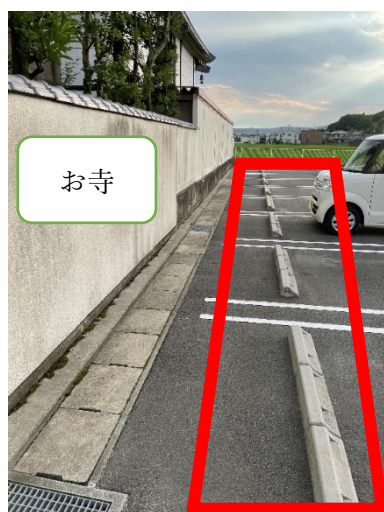
摩利支天月例祭

9月18日（木）・10月18日（土）午前10時より執行いたします。



施餓鬼会

9月20日（土）午後1時より執り行います。



当日のみ、お寺の北側に隣接する「ももレディースクリニック」の駐車場の一番南側（お寺側）の一行が使用できます。境内の駐車場と合わせてご利用下さい。駐車に際しては、事故等がないよう十分注意してください。

また、施餓鬼供養の申し込みが未だの方は早めにお申し込みください。

なお、塔婆を申込された方で、諸事情により当日の参加を見合わせられる方は、その旨を予めお寺に連絡頂けると助かります。翌日9月21日（日）は、終日お寺に居りますので、お越し下さい。お塔婆をお渡しします。

それ以降に来られる方は、ご連絡のうえお越しいただきますようお願いいたします。お布施は受け取りに来られた時にお願いします。

◇ 近 況 ◇

今年も8月13日から15日まで、本了院霊園で読経の後、本堂にて檀信徒の方々のご先祖様と共に、無縁仏の方々にもお盆のお経を唱え、迎え火、送り火を焚きました。本年もお盆の行事を無事終える事ができました。ありがとうございました。

合 掌

